

冠詞

例えば、「本」というものに言及するときがあるとします。

でもそれが、ある“特定の本”なら「その本はとくにオススメだ！」とか、“一般的に”本のことなら「本を読むのはいいことだ」、とか、意味が異なってきます。このように、同じ本(名詞)ではあっても異なる意味を持たせたいときに使える便利なものを冠詞といいます。この冠詞には a と the の2種類あり、名詞の前につけます。英語で a book と述べたとき、the book と述べたときは同じ book でも意味は異なってきます。

冠詞 A(a)の機能

下記では、まず a(an)を名詞につけるケースを種類分けにして述べていきます。(不定冠詞)(なお、a と an は、原則的には次にくる名詞が母音で始まるかどうかで使い分けるといいです。例えば book ならば b は子音なため「a book」ですが、apple の場合は始まりの a の音が母音なので「an apple」になります)

1. 名詞が「ひとつ」のものであるとき。

例★: I saw a car on the street.

通りで一台の車をみた

2. 一番最初に言及されるとき。(2回目以降は the がつく)

例★: I read a novel yesterday. The novel was about teenagers in Tokyo.

私は昨日小説を読んだ。それは東京に住む10代の人々についての小説だった

3. 一つの「種類」に言及するとき。

例★: A tomato is a fruit and not a vegetable.

トマトは果物であって、野菜ではない

4. ～に毎(～につき)

例★: I jog 30 minutes a day.

わたしは一日30分ジョギングする

5. なにかに漠然と言及するとき(とある～)

例えば、extend は「程度」という意味で、an extent なら「ある程度」という意味。「to an extent」というと、「ある程度まで～」という意味で文に加えることができます。

★例文: You can get rich to an extent by working hard.

(一生懸命働けばある程度は豊かになれる)

※a certain～=とある～、という意味で、よく使われます。a certain book といえば、「とある本」と、漠然と何かの本に言及します。

冠詞 the の機能

下記に、冠詞(the)を名詞につけるケースについて種類別に説明します。

1.当事者間で「共通認識」として明白な名詞に言及するとき。

例★: *I will answer the phone.*

僕が電話にでるよ

※電話が鳴ったとして、そこに二人以上の人間がいたとすると、その電話は彼らにとっては共通の対象物として the phone と言えば認識される。

2. 2回目以降に言及される名詞に言及するとき。

例★: *I bought a pen yesterday. The pen was very expensive.*

私は昨日ペンを買った。そのペンはとても高価だった。

3.名詞の後につく節や句によって、名詞が特定のものに限定されているとき。

例★: *The products from ABC company are always reliable.*

ABC社の製品はいつも信頼できる

※ABC社の製品に「from ABC company」という句を用いて限定している。

4.助数詞につけるとき。

例★:

the first chapter

第1章

the second chapter

第2章

the first inning

野球の「第1回」

5.最上級の形容詞を使うとき。(最も～だ)

例★: *The richest man in town*

町で一番の金持ちの男

※形容詞の最上級 est の前につける。

6.same や only を名詞につけるとき。

例★: *We have the same opinon.*

私たちは同じ意見をもっている

You are the only person who can use your talent in this world.

あなたはあなたの才能を使うことができるこの世でただ一人だけの人物だ

7.the＋形容詞(もしくは分詞)で名詞をつくる時。

例★: *The rich are expected to donate some money in this society.*

この社会において、お金持ちの人たちは、いくらのお金を寄付することが期待されている

(※richのみでは形容詞ですが、theを伴い「the rich」にすると「お金持ちの人」という名詞のかたまりをつくれます)

8.(この世で)ただ一つだけの名詞に言及するとき。

例★: *The equator is the boundary between the northern and the southern hemisphere.*

赤道は、北半球と南半球の境界線のことです。

(※ここで言及される equator(赤道)、boundary(境界線)、the northern hemisphere(北半球)、the southern hemisphere(南半球)はいずれもこの世に一つだけのものです)

9.ある名詞を単位として述べる時。(～単位で)

例★: *Frequent customers always purchase milk by the gallon in this store.*

この店では常連のお客はいつもガロン単位でミルクを買う。